



### 北条高校生による読み聞かせ交流会



▲本に興味を持ってもらおうと読み聞かせをする北条高校生

北条高校生 20 人が 7 月 12 日、本に親しんでもらおうと、富田小学校の児童計 144 人に絵本や紙芝居の読み聞かせをしました。

1 年生のクラスでは、読み聞かせのほかに、クイズなどもして、交流を深めました。

児童は「おねーちゃんが読んでくれて楽しかった」「本が好きなので読んでもらえてよかった」と楽しい時間を過ごしました。

### がん予防のために「女性の健康づくり講演会」



▲大西さんが講演。参加者は女性特有のがんの予防方法などを学びました。

加西市・市医師会・市保健衛生推進協議会主催の「女性の健康づくり講演会」が 6 月 28 日、市民会館で開催され、170 人が参加しました。

兵庫県立がんセンターの西村隆一郎院長は、女性特有のがんについての病態や治療、検診の必要性を説明され、ゆずりは明石（がん患者グループ）の大西忍さんは、自身のがん体験談を交えながら、がんを予防するための方法などを語られました。

### 短冊に願いを込めて「七夕会」



▲飾り付けた笹の前で、七夕祭りの歌をうたう園児

宇仁幼稚園で 7 月 6 日、「七夕会」が行われました。園児 30 人は、七夕祭りの歌をうたったり、七夕の話しを聞いたりしました。前日には親子で、笹に短冊や提灯などの飾り付けを行いました。

短冊には、「走るのが速くなりますように」「なんでもしっかり食べられるように」「みんな仲良しで健康な毎日でありますように」など、園児や保護者の願いが書かれていました。

### 市民と病院職員がふれあう「ホスピタルフェア」



▲腹腔鏡手術の疑似体験。実際の手術で使用する器具を使い、モニター画面を見ながら、箱の中にあるお菓子をつかむ参加者。

地域に根ざした病院をめざして、市立加西病院は 7 月 7 日、「第 9 回ホスピタルフェア」を開催、市民ら約 300 人と病院職員がふれあいました。

山邊裕院長が「高齢化社会と地域医療」、岡村健二精神科部長が「認知症における最近の診断と治療」をテーマに講演。研修医による相談コーナーや看護師の制服を着た記念撮影、腹腔鏡手術の疑似体験などの催しが行われました。

### かぶと虫と一緒に 1 時間の小旅行



▲かぶと虫と列車の旅を楽しむ子どもたち

北条鉄道は 7 月 21・22 日、「かぶと虫列車」計 8 便を運行し、親子連れら約 500 人が列車の小旅行を楽しみました。

車内を木の小枝や葉で飾り森に見たてた列車は、北条町駅と粟生駅間を往復しました。

乗車した子どもたちは、プレゼントされたかぶと虫を手し、運転士から飼育のポイントを聞き、「オスは強そう」「大事に育てたい」などうれしそうでした。

### もしもの時のために着衣水泳訓練



▲着衣のままプールに入った児童は泳ぎにくさを実感。「浮いたまま助けを待ちましょう」と教わりました。

万が一溺れてしまった時のために、宇仁小学校で 7 月 18 日、全児童約 80 人が着衣水泳訓練を行いました。

どの体勢が一番楽に浮けるかを試した後、ペットボトルなどを利用して、できるだけ体力を使わずに長く浮く方法を学びました。

また、溺れている人を発見した場合は、「大人を呼びに行く」「ペットボトルなどの浮きやすい物を投げる」などと教わりました。

### 安全で安心な地域社会を築くために啓発活動



▲アスティアかさい、イオンモール加西北条、市役所で啓発活動を行う、社会を明るくする運動・加西市推進委員会の皆さん。

犯罪や非行をなくし、あやまちからの立ち直りを支える地域をつくろうと、北播保護司会（吉田公明・加西分区長）や更生保護女性会、警察、市などは 7 月 2 日、社会を明るくする運動を行いました。

参加した約 60 人は、犯罪や非行をする人を生み出さない家庭や地域づくりをすること、立ち直ろうと決意した人を社会で受け入れていくことの大切さを、キャンペーン用品を配りながら啓発しました。

### みんなの声が東北へ届くように



▲ジャズビッグバンド・スガ部の演奏。来場者からの 100 円募金で、会場から被災地へ支援物資なども送りました。

東日本大震災の被災者を支援しようと、NPO 法人 MORE 地球家族が 7 月 21 日、第 3 回復興支援イベント「ハチドリまつり」を日吉神社（池上町）で開催しました。

ハチドリが、燃える森に口ばしで水を一滴ずつ運ぶアンデス地方の物語をもとに、一人ひとりが行動を起こすことの大切を呼びかけました。

被災地の仮設で暮らす方たちが作った小物などの販売も行われました。